

シュッコンカスミソウのトンネル蒸し込みによる生育促進

第1報 蒸し込み時間帯

後藤 哲・藤原博文¹⁾ (大分県温泉熱花き研究指導センター・²⁾大分県日田農業改良普及センター)

Satoshi GOTOH and Hirofumi FUJIWARA : Growth Hestening of *Gypsophira paniculata* L. by Closed Condition of Plastic-Tunnel

1. Time of Plastic-Tunnel-Musikomi

シュッコンカスミソウの栽培において生育初期が低温短日となる作型では、終日ハウスを閉め込んで(蒸し込み)生育促進を図る方法が現場技術として定着している。本報では、シュッコンカスミソウの低温短日期の初期生育促進のための蒸し込み時間帯について検討した結果を報告する。

1. 材料および方法

品種は“プリストル フェアリー”を用い、1994年10月20日に定植し、11月11日に摘心、1株3本仕立てとした。蒸し込みはロゼット状生育期である12月5日に開始し、ビニルトンネルで密閉し、蒸し込んだ。試験区は蒸し込み時間帯を①8時半開放区：17時～8時30分、②10時開放区：17時～10時、③12時開放区：17時～12時、④終日密閉区：終日蒸し込み、⑤対照区：蒸し込みなし、とし、蒸し込み終了を生育の早い区の分枝の出蕾期である1995年1月12日とした。温室の管理は夜温最低約10℃とし、日中は約25℃で換気した。日長処理は蒸し込み開始期から開花期まで23:00～2:00の3時間電照した。区制は1区8株で反復なしとした。なお、蒸し込み開始期と終了期の日の出時間は、大分地方気象台の報告ではそれぞれ7時1分と7時18分であった。

2. 結果および考察

蒸し込み開始後10時と12時開放区および終日密閉区は節間伸長を開始し、急速に草丈が伸長した。蒸し込み終了後の伸長は10時開放区が最も優れ、12時開放区および終日密閉区はやや劣った。8時半開放区と対照区は蒸し込み期間中の草丈の伸びが劣り、8時半開放区は蒸し込み終了後の生育も劣った。

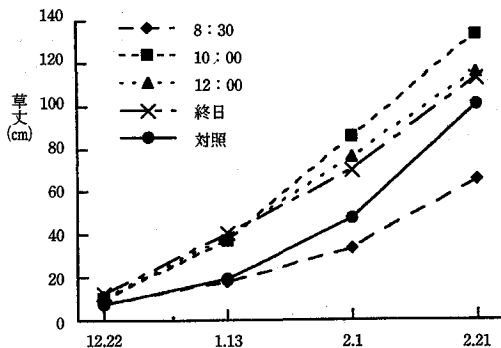
節数は10時と12時開放区および終日密閉区がほぼ同様の早さで増加し、8時半開放区と対照区はやや劣った。

開花期は10時開放区が最も早く、次いで12時開放区、終日密閉区、対照区の順で8時半開放区は最も遅かった。

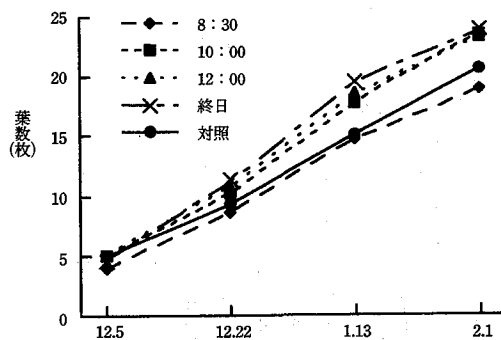
主茎開花率は10時開放区が最も優れた。

切り花品質については区間に大きな差は認められなかったが終日蒸し込み区の上位10節長と節間長がやや短く、茎が細い傾向があった。

以上の結果、蒸し込み期間中の草丈の伸長は10時と12時開放区および終日密閉区で著しく促進されたが、12時開放区および終日密閉区は蒸し込み終了後の生育が劣り、最終的には10時開放区の生育が最も早く、品質も優れた。このことから、12時から1月の低温期における初期生育促進のためのトンネル蒸し込みは朝10時までが良かった。



第1図 草丈の推移 (1994～1995年)



第2図 葉数の推移 (1994～1995年)

第1表 開花状況と切り花の諸品質

試験区	開花日 (月・日)	切花長 (cm)	切花重 (g)	節数 (節)	枝数 (本)	主茎
						開花率 (%)
8:30	3.30	143	114	31.2	15.6	71
10:00	3.15	154	112	29.4	15.1	100
12:00	3.17	153	128	29.0	17.9	83
終日	3.19	153	128	32.6	16.4	87
対照区	3.23	146	123	29.7	14.5	96